

会長就任あいさつ

蒔 田 浩



このたび岐阜県博物館協会会長就任のご推薦があり、不肖をかえりみずお引き受けいたしました。本会は設立以来、前岐阜市長上松陽助氏を会長として、関係各位が事業発

展のため鋭意努力され、県内文化の向上に多大な貢献をしてこられたと聞いております。

高度成長時代から生活優先の時代へ……物質文明の豊かさから精神文明の豊かさへ……と転換期を迎えた今日、博物館やその類似施設等は、わたくしたちの科学的・文化的な社会生活に欠くことのできない道具であり、また大切な友たちであると注目されるに至りました。

さいわいにして、県立の総合博物館「岐阜県

博物館」も開館して二年目を迎えております。加えて県内には、規模の大小・公私立を問わず地域地域の特色をもった個性的な館園等が100を越えており、本協会の事業活動は全国的にも注目されています。県内の数多くのこれら諸機関・施設等が、相互に連携し共同して研修を積み、自らの資質向上に努めるかたわら、世論や住民の要望に応え、新しい文化を創造していく場……とならねばならないと思います。

こうした重大な時期に、会長の重責がつとまるかどうか、自らをあやぶむものでありますが、お引き受けした以上は、会員各位のご支援を頂まして、おおいに意見交換・交流を行ない、これからの博物館の歩むべき方向を浮き彫りにしながら、熱意をもって郷土の文化振興に努力いたしますことをお誓いして挨拶いたします。

目 次

| | | |
|------------------------|-------------|----|
| 会長就任あいさつ | 蒔 田 浩 | 1 |
| 館園紹介 № 34 宝玉歴史館 | | 2 |
| 浅見化石会館 | | 3 |
| 博物館学あれこれ その1 文化財の保存と環境 | 岐阜県博物館 水野 一 | 4 |
| 岐博協の表彰者伊藤祐教氏ら5氏に | | 7 |
| 待望の棚橋賞レリーフ完成 | | 7 |
| 昭和51年度決算報告 | | 8 |
| 昭和52年度予算書 | | 9 |
| この人を訪ねて その1 金子貞二先生 | | 10 |
| 出版物案内 意欲的・活発な瑞浪市化石博物館 | | 11 |
| 県内ニュース・編集後記 | | 12 |

宝 玉 歴 史 館

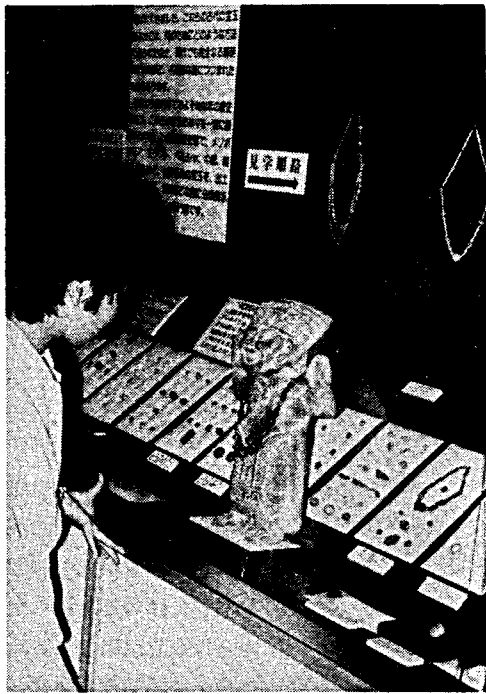
〒509-72 恵那市大井町奥戸(恵那峡)
TEL 05732 (6)-3055

美を求めた人類の足跡ノ

いつの世でも、女性は美しくありたい、美しく着飾りたい、そうコヒネガウ存在なのでしょう。時代・場所の違いはあっても、人間の住むところでは、いつでも装飾品としての宝物がもてはやされてきました。

恵那市で国道19号線を離れ恵那峡へ向かうと、恵那峡への入口、まさに表玄関にこぢんまりとしたエキゾチックな建物がある。館内からは月の砂漠のメロディーが流れ出て、シルクロードへの幻想を駆り立てる構図のポスターも目に入って来る。館内へ入ると、個人のコレクションとしては、よくもまあこんなに収集できたものだと、ただ驚くばかり、古代から現代におよぶ約5000年もの歴史をもつ宝玉の数々、メソポタミア・エジプト・ペルシャ、それに中国・朝鮮・日本など各地から出土した宝玉類が、出土地・年代・材質などの別に分類展示されている。

紀元前に、オリエント地方で作られたというしまメノウの首飾りを見れば、直径4mmほどの細いメノウ管に穴があげられている。カットメノウの玉もみられる。その時代、すでに人類がそれほどまでの技術を身につけていたとは、まさに驚異である。ガラス製のイヤリング・ペンダントの類も見られる。それにしても、数多くのガラス玉は、今私たちの目の前に、様々の味わいをみせてくれている。長年月間土にうずもれていて、金化・銀化し、あるいは碧色に青に緑に……ひとつひとつの小さな宝玉の輝きにふれるとき、いったい人類はいつどのようにし



てガラスの製造法を発見し身につけたのだろうか、当時の人々は、どれほどの年月と創意工夫の努力をして、身を美しく飾るための宝玉づくりをしたことだろうか、そうしたガラス玉、ガラス器はその後どこをどのように伝わって世界へ広められたのか、次々と古代への謎と夢がふくらんで来て楽しくなっていました。

「珍奇なものが並んでいるなぁー」ほう、こりゃ面白いもんじゃ」「こりゃどうやって作ったんじゃろ、よくできているなぁー」「うーん、きれいだ」などと、ただ受身一点ばりて陳列品を見て廻るだけの時代はもうすぎたのです。訪れる私たち自身が、自らが主人公となって主体的に物と接する態度、これこそが余暇時代といわれるこれからの人間の姿です。展示室の隣には、特別展示館として応接間を兼ねた部屋もあり、古代をさぐる教室の開催計画もあると聞きました。シルクロード方面の関係書物も並んでいました。お茶でも飲み飲み、シルクロードへの夢を語り合うのには、絶好の場所であると思ったのでした。開館：午前10時～午後8時、毎週水曜休館(祭日をのぞく)大人250円 小中高生150円 30名以上団体割引あり。

浅見化石会館

〒502 岐阜市長良高見町2丁目

TEL 0582-(81)-3997

まさに化石の実物教科書✓

何億年という長い大むかしの時代から、地球上にはじつにさまざまな種類の生物が生まれては減っていきました。この壮大な自然界の歴史は、人類にとっては汲めども尽きない夢とロマンの対象であるはずですが、あまりにもスケールが大きすぎ、しかも身近なこととして感じられないためか、一般の私たちにとっては「学問の世界」だけのこと……と思いがちです。しかし、科学は学者だけのものであっていいはずがありません。これからの文明社会では、科学が広く国民一般大衆のものとならねばならないし、そうであってこそ底の深い根強いほんものの文化が育つはずです。

故浅見薫氏は、すでに昭和10年という遠い過

〔赤坂産のオーム貝 シーロガステロセラス〕



去に、ふとしたキッカケから化石研究に開眼された街の研究家でした。約二ヶ月間、鉄工業の視察旅行で満州を廻られ、突天で一個の化石を入手して帰国されたのでした。これが、後に世界的にも注目される中生代の魚の化石 — リコプテラ — であると判明、この化石は図鑑にも載るなどし、以来氏の化石研究が始まったのでした。家業のかたわら 30余年にわたって、化石一筋に生き、収集し、研究されたその文化遺産は、現在娘さんに引継がれ、昭和40年に建設された今の会館内で生き続けているのです。

収集・整理されている化石は、やはり郷土のもの、ことに大垣市赤坂金生山から出たものが多く、これら館内の展示物全体は、「浅見化石コレクション」として、昭和45年1月に、岐阜県天然記念物に指定されました。展示は、古生代・中生代・新生代と時代順になされており、まさに化石の実物教科書がここにある……という感じである。

大垣赤坂産のオーム貝（シーロガステロセラス）は、古生代ペルム紀のもので、じつにみごとなもの、かつて太平洋学術会議の会場に展示されたときには、世界の学者がこぞって欲しかったというものです。しかし、こうした大きいものや、数少ないものだけでなく、3000点に近い収蔵品のひとつひとつこそが、学問の発展をささえてきた基盤であることを知らねばならない。

維持費としての志をいただけるだけで、家業のかたわら、鉄骨二階建、建坪30坪の化石館を運営され、教育に役立ててもらおうと公開されている浅見家の熱意・情熱こそは、地方文化を支える隠れた柱そのものである。開館は土・日曜、10時～17時に限られているが、事前に連絡をとって依頼すれば、平日でも開館していただけるとのこと。

最近、化石研究家の協力・援助などもあって、イギリス・アメリカ・台湾などからの化石資料もふえているとのことで、規模はささやかながらも内容の充実した、まさに「街の化石の殿堂」そう呼ぶのにふさわしい浅見化石会館である。

文化財の保存とその環境

岐阜県博物館学芸部 水野 一

「なんといっても秘仏ですからネ。私でも拝ませてもらったのは、確か5年前でしたか。しっかり納めてあるので大丈夫ですヨ。でも、一度この機会にホコリをはらわさせてもらいますか……。」と、うやうやしくとり出してみたところ、カビと虫喰いで痛みがひどく、手のほどこしような文化財は案外多くあるのではないだろうか。

「ご覧ください。温度は20℃、湿度は55%を年中保てます。鉄筋コンクリート建て、内部は総ヒノキ貼りの近代建築ですヨ。虫が入ってきたら殺菌灯でイチコロ。展示内装はクロスばりです。」と自慢される環境の良い室の隅にカビが育ち、発育のいい虫がカクレンボウをし、殺菌灯・蛍光灯で絵巻物や染色品の褪色が進行していることも絶対ないとは言いきれない。

日本は文化財保存に関しては、非常に悪い条件がいっぱいある。

古来、日本の文化財は、信仰心や愛好者の手に守られて、御開帳・曝涼（虫干し、一般的には秋）がおこなわれ、ホコリをはらい風通しを良くしてカビ・虫を追い出し、老化・劣化部分を補充修理した。そして、除虫菊やハッカとともに校倉造の建物に保存されてきた。

しかし、文化財を公開し、国民全体の文化財愛護の認識のもとに未来に向けて保存していくという立場にあって考えた場合、その保存法と環境の設定の中にひそむいくつかの問題点をあげることができる。

右図のクライモグラフでわかるように、文化財は特に高温多湿と低温乾燥を嫌う。

文化財に害を与える虫の生育し易い条件は、気温25℃、湿度78%前後が最適条件といわ

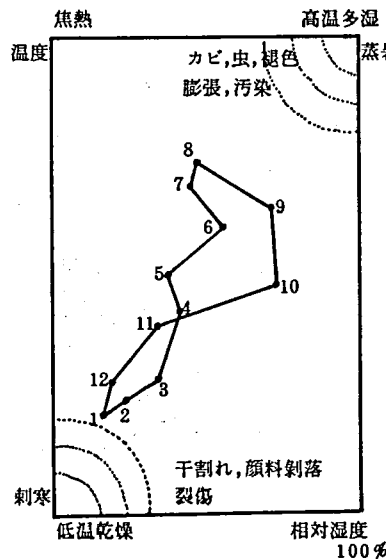
れている。

一般に文化財を構成する主材質は、木・紙・布・皮・土・石・金属であり、ヨーロッパの文化財が土・石・金属からできているものが多いのに対し、日本の文化財の材質は木・紙・布などが多いことが特徴である。前者のような材質であれば、虫による被害はほとんどないが、日本の場合、虫により文化財が崩壊することも少なくない。

数例をあげてみると、シバンムシ科の虫は木彫仏像・屏風・古文書その他古い木材製品に小さな穴を無数にあげ、心材も食害する。ヤマトシロアリは建造物の土台部を、イエシロアリは柱の上の方までをボソボソにする。地震・台風・その他近辺での土木工事の際、重文の古建築が突然に倒れてしまうこともありうる。また、チャタテムシ（ホンジラミ）・シミ・ゴキブリは、

紙・軟材を
あつという
間に喰い荒
し、その糞
で黒い汚れ
をつけてし
 まう。

湿気も少
なく低温だ
からといっ
ても油断は
できない。
温度7℃、
湿度30%
ほどのとこ
ろでもチビ



タケナグクイムシは竹製品から畳類をボロボロに喰い荒すし、イガ・コイガ・カツオブシムシの幼虫やアブラムシは毛皮・毛織物・乾燥動植物標本・書籍装幀類に加害する。ヒラタキクイムシ科の幼虫は、ラワン・ナラ材の書架・陳列ケース支柱・陳列台とこれにつながる木材質の中だけを確実に空洞する。

文化財に害を与えるのは虫だけではない。

乾性カビは15℃・80%の温湿度で良く育ち、湿性カビは25℃・80%の温湿度で活気づく。

法隆寺の金堂壁画に黒い斑点のシミが見ついたことがあった。(大正9年)調べてみると、クラドスポリウム菌が繁殖していることがわかったということである。クラドスポリウム菌は、今では陳列ケースの内装に用いる接着剤や軸装の糊部分・壁面などによく出る青カビである。一般に高温時に繁殖しやすいカビである。

カメラのレンズにつく青コウジカビは、青黒い模様をつくともう除去することはできないといわれているが、これが銅鏡や刀剣の身の方に高温多湿で付着し乾燥により黒い色素を残し、錆化のもととなる。これは木材腐朽菌・黒カビにもいえることである。

新築のコンクリートのアルカリを好むバクテリアは、赤・青・紫・白の顔料や天然染料の用いてある文化財を褪色・変色させる働きがあるが、夏は冷房によって活動がにぶく発見が遅れ、高温多湿になりがちな冬場に影響があらわてくる。

文化財保存上乾湿の問題については、漆工品や考古の木製資料の場合、夏は外気より5℃下げるくらいの温度(25℃~26℃)、冬は外気より5℃上げるくらいの温度(15℃~18℃)を標準にして、60%~70%の湿度を、金工品は先の標準温度に45%ほどの湿度が理想的であるとされている。両者の美術工芸品を同居させている場合、平均50%~60%の湿度を一定持続させることが大切である。

湿度や温度が日時によって変動することは、文化財の材質に悪い影響を与えているということである。

一例をあげれば、その悪い影響の一つに白露現象というものがある。白露現象とは文化財の材質が異質材料の組み合わせからくる脆弱な部分の破損現象をいう。たとえば、日本刀と拵が一緒にあるとき、湿度が高くなると刀身は汗をかきカビの発生を促がし錆化する。乾燥してくると拵はゆがみ飾りの塗装部分に干割れを生じる。

仏像の塗料は、顔料と膠の混ぜ合わせたものが多い。年月の経った仏像を乾燥しているときに動かそうと力をチョット加えると、ズルッと剥がれてしまうこともある。

媒染を用いた(文様・家紋など)染色工芸品が乾燥すると、少しこすっただけで粉々になってしまう。100年以上を経た染色品には手をふれない方がいいという気持が優先する。

また、蒔絵の螺鈿など温度が高くなるとはめである貝がはがれたりひずんだりするし、漆はひび割れを生じる。

このほか、石造狛犬・化石岩石標本・石や金属性の灯籠などは、工場廃ガスや地衣類・硫黄細菌・モントミルヒなど空気汚染や土壌細菌の影響を受け易い。宇治平等院の梵鐘の錆化は近辺の工場の硫酸ミストが原因ではないかといわれているし、白拵の石仏など摩崖仏や古墳時代の露出した石棺などに見られるスケーリング(層状剝離)は風化とか土壌細菌によるものとみられている。

以上にあげた生物劣化に対する防除はどのようにしたらよいだろうか。

一番簡単な方法で基本的なことは当初にあげた曝涼を度々おこなうことである。寺院などの文化財は、線香や香・御開帳や金銅像などに“お湯ぶき”などの行事で文化財が永く守られてきているが、その他の個所ではホコリをはらいながら虫の糞が落ちていないか、カビが生えていないか、収納箱などに異状がないかなど、不断に注意の目を向けることが必要であろう。

次に薬品による防除の方法であるが、まだ虫やカビに侵されていない文化財については保管室の空調と湿度の調節が大切である。また保管の状態によっては、害虫の侵入を防ぐ金網や、

除湿器・加湿器も必要となる。新たに納められる文化財には、殺虫・殺菌をおこなう必要もある。そして、文化財・保管室等には燻蒸をおこなうことが望ましい。

ただ、虫によく利くからと農薬を用いることは、文化財の材質に化学変化をおこし褪色をもたらすので危険である。一般には防虫防カビ両方に利くメチルプロマイドや、昔から普及しているパラジクロベンゾールなどの燻蒸剤がある。燻蒸剤は気化するので、材質の深くまで浸透していくので現在文化財の材質内にいる虫には効果をあげているが、あとから入ってくる虫に対しては効力がない。また、この燻蒸剤の取扱いは密閉することと燻蒸時間を要し人間にも有毒であるので、誰れにでも扱えるというわけではない。

農薬に多い有機リン系の薬品を使う場合、鎧甲冑・刀剣・銅鏡・絵軸など銅・銀・鉄・顔料染料の使った文化財は、黒く変色する恐れがあるので、文化財に薬品が直接ふれることのないように考慮する必要がある。

また、近頃イガ・コイガ・カツオブシムシ等

に良く利くので推奨されるパラジクロベンゾール錠剤（防虫・防カビ）は、樟脳との混用を絶対避けるべきで、両薬剤が接触するとたちまち樟脳の溶解がはじまり透明な液体となり、パラジクロベンゾールまでを溶解し液体となり、紙・布類を汚染する。箱の中に以前入れた樟脳を忘れていて応々失敗することがある。

このパラジクロベンゾールは、気化する際天然染料色素を破壊するし、スチロール樹脂・アクリル樹脂でも表面を浸すので、例え紙に包んであっても樹脂系の箱に納めたり、文化財のそばに密着させておくことは好ましいことではない。特に高温になるほど危険率は高くなる。

終りに、各地における文化財の保管室・陳列館において、美術品文化財と有形民俗文化財が同居している例を良く見かけるが、防除対策がとられていない限り、虫やカビの移動とひろがり避けるために隔離すべきは、文化財愛護の上からも、管理者の当然の義務ではないかと考えている。

（次号は「展示と取扱い」について）

国立民族学博物館友の会 入会のすすめ

「季刊民族学」と「月刊みんぱく」を発行

国立民族学博物館では、市民のあいだにしっかりと根をおろし、機能を十分に発揮する一方法として「友の会」を発足させた。普通会員で年額1万円、ビックリするような高額の会費と思えるが、現代日本の市民の知的水準の高さ、国際的な知識と感覚に対する潜在的な要求をもつ教養ある家庭の存在に期待して、どこまでも一般市民を読者と予想した「家庭学術雑誌」としてこのA4判・オールカラーの「季刊民族学」と「月刊みんぱく」が配布されるし、入館は無料となるということだから、知的投資とすればそんなに高価なものではない。

連絡先 大阪府吹田市千里万国博記念公園内
財団法人民族学振興会千里事務局
「国立民族学博物館友の会」係

原稿募集

機関誌は、横の結びつきを密にし、情報を交換し、お互いに手を取りあって発展向上するためのものです。

- ◎博物館行政に対するご意見・提言
- ◎各館園での展示の工夫・アイディア
- ◎運営苦心談、資料収集の苦心談
- ◎事業活動のようす、今後の計画
- ◎自慢の資料紹介、資料研究レポート
- ◎随筆・随想文

その他、どんな内容でも結構ですから、気軽にどんどん事務局までお寄せ下さい。特にメ切り日は設けておりません。

岐博協表彰 伊藤祐教氏ら5氏に

年度初めの総会が、今年は岐阜市雄総の岩船荘で、5月15日に開かれた。雨あがり、新会長（蒔田浩岐阜市長）を迎え、白鳥泳ぐ池に新緑もひとときわ映えるような一日であった。

当日、この席で次の五名の方々が表彰された。

☆伊藤祐教氏（下呂・伊藤祐教コレクション）
協会設立草創期に於ける活躍、また協会発展の為の尽力に対して。

☆小栗克介氏（日吉ハイランド・歌舞伎博物館）
歌舞伎資料収集と芝居小屋復元、またそのユニークな博物館開設に対して。

☆土田吉左衛門氏（飛騨集古館）

協会発展とセミナー、学芸技術員講習会、全国博物館大会等、学術面で多大の貢献。

☆青木允夫氏（内藤記念くすり博物館）

幅広い学識と経験を以て、協会運営に学芸技術員講習会、全国博物館大会等に貢献。

☆山本信三氏（高山民俗村管理事務所）

協会発展に尽力、さらに全国博物館大会に於いては、その運営に多大の貢献。

また、7月2～4日、くすり博物館で催された日本博物館協会主催の研修会の席上、「日本博物館協会」に対して、当会から棚橋賞を毛利専務理事に手渡した。

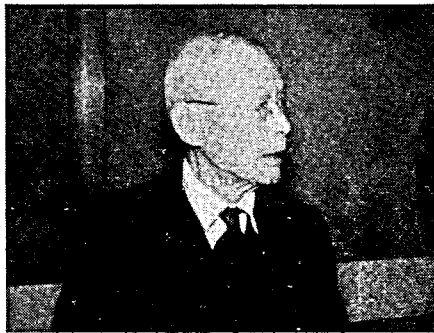
待望の「棚橋賞」レリーフ完成

かねてより待ち望まれていた棚橋賞の副賞は、高山市民俗村名誉村長である長倉三朗氏のご尽力によって、今春、みごとな陶製レリーフとしてできあがった。

岐阜県が生んだ、わが国博物館界育ての親、棚橋源太郎先生をモデルに、二科会々員・辻合喜太郎氏が原型を製作、小糸焼陶芸家として知られる長倉三朗氏が、入念に焼きあげたもので、織部の緑がとても美しいものです。

台は、樺の一枚もので高山市の岐阜県工芸試験場で製作されたもので、この楯を一層重厚で美しいものにしています。

辻合氏・長倉氏・工芸試験場が三位一体となって作りあげたこの「棚橋賞レリーフ」は、焼き物のふるさと、飛騨の匠のふるさと、岐阜県ならではのもので、岐阜県下の博物館界で功績をあげられた方々に贈られる副賞としてはうっ



（ありし日の棚橋源太郎先生）



（完成したレリーフ）

てつけのものです。

※棚橋源太郎先生。

明治2年岐阜県本巣郡北方村生まれ、昭和36年4月、91才で逝去。生涯の大半を博物館事業の振興に捧げられ、東京教育博物館長、東京博物館長、赤十字博物館長、日博協顧問、各種博物館評議員、博物館学講座の講師等を務められ、昭和33年藍綬褒章を授与された。昭和34年には、国際博物館会議から、世界で3人の中の1人として名誉会員となられた。郷土が生んだ日本の博物館、育ての父でした。

昭和51年度 決算書

| | | | |
|-----|-----------|-----------|-----------|
| | 予 算 | 決 算 | 増 減 |
| 収 入 | 1,029,509 | 1,119,464 | + 89,955 |
| 支 出 | 1,029,509 | 896,688 | - 132,821 |
| 残 高 | | 222,776 | |

収入の部

(単位 円)

| 項 目 | 予 算 | 決 算 | 増 減 |
|-------|-----------|-----------|----------|
| 前期繰越金 | 88,009 | 88,009 | 0 |
| 会費 | 327,500 | 300,000 | -27,500 |
| 補助金 | 540,000 | 540,000 | 0 |
| 要覧売上金 | 70,000 | 187,440 | +117,440 |
| 雑収入 | 2,000 | 1,500 | -500 |
| 利 息 | 2,000 | 2,515 | +515 |
| 合 計 | 1,029,509 | 1,119,464 | +89,955 |

支出の部

| 項 目 | 予 算 | 決 算 | 増 減 |
|--------|-----------|---------|----------|
| 事務費 | 160,000 | 140,048 | -19,952 |
| 通信連絡費 | 80,000 | 92,838 | +12,838 |
| 会議費 | 30,000 | 1,700 | -28,300 |
| 印刷費 | 20,000 | 20,000 | 0 |
| 需要費 | 30,000 | 25,510 | -4,490 |
| 機関誌費 | 309,000 | 325,560 | +16,560 |
| 印刷費 | 150,000 | 229,300 | +79,300 |
| 送料 | 120,000 | 48,500 | -71,500 |
| 取材費 | 30,000 | 40,000 | +10,000 |
| 会議費 | 9,000 | 7,760 | -1,240 |
| 東海博総会費 | 210,000 | 210,000 | 0 |
| 開催費 | 200,000 | 200,000 | 0 |
| 会費 | 10,000 | 10,000 | 0 |
| 日博協総会費 | 96,400 | 67,100 | -29,300 |
| 総会費 | 40,500 | 40,220 | +280 |
| 通信費 | 13,500 | 14,350 | +850 |
| 会場費 | 12,000 | 9,700 | -2,300 |
| 印刷費 | 5,000 | 5,000 | 0 |
| 茶菓料 | 10,000 | 11,170 | -1,170 |
| 表彰費 | 10,000 | 25,200 | +15,200 |
| 役員会費 | 15,000 | 24,150 | +9,150 |
| 振替手数料 | 5,000 | 4,420 | -580 |
| 慶弔交際費 | 15,000 | 13,460 | -1,540 |
| 要覧発送費 | 60,000 | 46,530 | -13,470 |
| セミナー費 | 80,000 | 0 | -80,000 |
| セミナー費 | 50,000 | 0 | -50,000 |
| 学技講習 | 30,000 | 0 | -30,000 |
| 予備費 | 28,609 | 0 | -28,609 |
| 合 計 | 1,029,509 | 896,688 | -132,821 |

昭和52年度 収支予算書

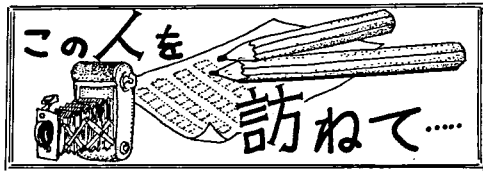
収入の部

(単位 円)

| 項 目 | 52 予算 | 51 予算 | 増 減 | 備 考 |
|-------|-----------|-----------|----------|--|
| 前期繰越金 | 222,776 | 88,009 | +134,767 | 公 3,000×27 私 2,500×44 個 1,500×52 入会金 2,000×5 賛助 50,000 |
| 会 費 | 329,000 | 327,500 | + 1,500 | |
| 補助金 | 540,000 | 540,000 | +- 0 | 岐阜県 440,000 岐阜市 100,000 |
| 要覧頒布 | 28,000 | 70,000 | -42,000 | 560円×50 |
| 雑収入 | 2,000 | 2,000 | +- 0 | |
| 利息 | 2,000 | 2,000 | +- 0 | |
| 合 計 | 1,123,776 | 1,029,509 | 94,267 | |

支出の部

| 項 目 | 52 予算 | 51 予算 | 増 減 | 備 考 |
|----------|-----------|-----------|----------|-------|
| 事務費 | 195,000 | 160,000 | + 35,000 | |
| 通信連絡 | 100,000 | 80,000 | + 20,000 | |
| 会議費 | 30,000 | 30,000 | +- 0 | |
| 印刷費 | 20,000 | 20,000 | +- 0 | |
| 需要費 | 45,000 | 30,000 | + 15,000 | |
| セミナー費 | 160,000 | 80,000 | + 80,000 | |
| セミナー講習会費 | 60,000 | 50,000 | + 10,000 | |
| 講習会費 | 100,000 | 30,000 | + 70,000 | |
| 要覧送料 | 0 | 60,000 | - 60,000 | |
| 機関誌費 | 349,000 | 309,000 | + 40,000 | 6回 |
| 印刷費 | 180,000 | 150,000 | + 30,000 | |
| 送料 | 120,000 | 120,000 | +- 0 | |
| 取材費 | 40,000 | 30,000 | + 10,000 | |
| 会議費 | 9,000 | 9,000 | +- 0 | |
| 東海博総会費 | 20,000 | 210,000 | -190,000 | |
| 開催費 | 0 | 200,000 | -200,000 | |
| 会費 | 10,000 | 10,000 | +- 0 | |
| 旅費 | 10,000 | 10,000 | + 10,000 | |
| 日博協研究集会費 | 100,000 | 0 | +100,000 | |
| 同総会費 | 20,000 | 96,400 | - 76,400 | |
| 総会費 | 43,000 | 40,500 | + 2,500 | |
| 通信費 | 16,000 | 13,500 | + 2,500 | |
| 会場費 | 12,000 | 12,000 | +- 0 | |
| 印刷費 | 5,000 | 5,000 | +- 0 | |
| 茶菓費 | 10,000 | 10,000 | +- 0 | |
| 表彰費 | 115,000 | 10,000 | +105,000 | 表彰楯作成 |
| 役員会費 | 48,000 | 15,000 | + 33,000 | |
| 振替手数料 | 5,000 | 5,000 | +- 0 | |
| 慶弔交際費 | 15,000 | 15,000 | +- 0 | |
| 予備費 | 53,776 | 28,609 | + 25,167 | |
| 合 計 | 1,123,776 | 1,029,509 | + 94,267 | |



その1 明方村立博物館長

金子貞二先生

岐阜県にこの人あり、ということで早速伺いました。郡上八幡から少し入った明方村立博物館。館長・金子貞二先生は、今年、中日社会教育功労賞を受賞なさった方です。

昭和39年、教室1つの展示室から始まった奥明方中学校民俗資料館は、村人らの協力と金子先生の熱意とで、資料数一万八千点の村立博物館となり、昨年は六千万円余の費用をかけ大改造もなされました。古い木造校舎をうまく利用した2階建て12室の展示場には、よくもまあ、これだけ集めたり、といった案配にぎっしり、民俗資料が並んでいます。

その要所要所には、先生の美しい筆跡で歌が添えられ、使用の様子が絵にされているのですが、そのほのぼのとやさしいこと……。

民具が息づいているかのような、錯覚に捕われます。どのような人がどのような思いで使っていたのかしら、と思わず引き込まれるような暖かい展示。見学に来るといふより故郷に帰ったという気分させてくれる、先生の展示への心づかい。

先生はおっしゃいます。持って来てくれたものは、みな並べる、と。確かに、非常に貴重なものもあれば、蛇の抜殻なんでものから、何の変哲もない使用済みの切手まで置いてあります。

ここは確実に村人の、「わしんたあ（私達）の博物館」なんだとの思いを強くします。村人の歴史が、そして生活が、そこにはあり、いつでも気軽に立ち寄れる、彼らの誇りでもあるのです。——これは、博物館の原点ではないでしょうか。外観ばかり整っても血の通わない館も少なくない中で、ユニークな地域との結びつきを果たしているこの館は、何と生き生きしていることでしょう。

「いよいよ、資料館が村に移管されることになって、条例を定める際に、名称を明方村立博



物館と改めました。博物館とは些か大袈裟なという声もあろうかと思いますが……略……もっと皆に親しまれるようになり、どこの町にも村にも博物館があって、いつでも気軽に入っていけるようになったら、どんなに日本中が楽しくなるでしょう。これはそんな願いもこめてのことなのです。)(金子貞二：「十三年間を顧みて」抜粋)

毎朝通うバスの中で、「こんなものがあったよ」と村の老人から資料をさし出される金子先生。親しまれる博物館は、親しまれる金子先生、とも言い変えられるわけです。村人は暖かくて恬淡です。自分さえよければ、他人には関知しない、という都会人のセンスでは、とてもこれだけの資料は集められなかったでしょう。

素朴な村の人々、その心を、生活を、みごとに展示に再現してみせて下さる金子先生。「奥美濃よもやま話」全5巻の著書にみられるように、村人とともに村人の中にとけこんでの土着思想に支えられた博物館づくりの典型をみる思いでした。

秋の雨が肌寒い一日でした。でも、帰り道の、ほったて小屋のような、小さな山のバス停には、誰がかけたか空き缶のコスモスが、雨にぬれてゆれていました……………。

(古田 記)

出版物案内

意欲的・活発な瑞浪市化石博物館

博物館が、「もの」の陳列場から脱皮して、「もの」を通しての学習の場となり得るためには、市民の方々の学習によりよい理解の手助けとなる諸施策の推進こそが、柱となってきます。友の会活動や講演会、観察会、体験学習会の実施など、博物館側の積極的な市民への働きかけが重視されます。また文化創造のための情報センターとして、各種参考資料・図書類の出版活動の量と質の如何こそが、博物館たるかどうかの分岐点とも考えられます。この面で意欲的・活発な瑞浪市化石博物館の出版物を紹介してみよう。

※展示解説書「瑞浪の化石のはなし 展示解説」

A5判、総アート紙使用、48ページ

博物館を見る人の手引書で、館内の説明で不十分なところをおぎなった展示解説書です。展示室案内に始まり、メインテーマの「瑞浪の化石と地層」「その頃の海と陸」など8テーマについて、さらにサブテーマ・教育のひろば、野外展示等について、展示コーナー写真、資料そのものの写真、あるいは図表もとり入れて解説されており、カラフルでとても楽しい雰囲気です。家庭にあって、これ一冊を通読するだけでも、瑞浪の化石のはなしがよくわかるようにつくられています。博物館の本来の姿は、団体でソロソロ見学することよりも、むしろこうした手引書を片手に、訪れた私ひとりこそが主人公となる自主独立学習の場ではないでしょうか。

※「東濃地学散歩」

博物館内に、どれだけ実物資料が収集・整理保管されたとしても、最高の博物館資料は、植物にしても地層にしても、やはり野外にあるがまゝの生きている植物であるし現場での地層の状態そのものである。そうしたことから、博

物館こそは、地域の野外にある諸資料を、市民の学習教材として活用・利用できるような働きかけなければならない。この「東濃の地学散歩」は、そうした面での瑞浪市化石博物館の意欲と情熱を発揮した出版物で、A5判、28ページの小冊子とはいえ、野外学習の絶好の手引書となっている。一ページ一項目の解説で、「恵那山と笠置山」「屏風山断層」「上野火山」「古木首川」「東海自然歩道を行く」など、周辺に特徴的な地学関係の内容案内となっている。やゝもすると、館内の展示だけに目を奪われがちな博物館の多い中において、野外学習会等、市民の中に根づいた教育活動に精力的なここならではのヒット出版物です。

※「瑞浪層群の化石 写真集」

博物館が確かな情報を握って、より正しい展示による教育普及が行なえるのは、その背景となる調査研究が強力に推進されているからである。この面でも、充実している瑞浪市化石博物館では、専門的な学術報告書の刊行もなされている。その博物館研究報告第1号の図版の部分を抜粋して、一般向けの写真集として出版したのがこの写真集です。B5判、総アート紙使用、85図版。

「展示解説」550円、「瑞浪層群の化石 写真集」1,000円で、いずれも博物館受付で購入できます。



県内ニュース

可児町民俗資料館オープン

可児郷土歴史館の付属施設として、去る8月27日に開館。江戸後期の当地の代表的な民家、木造入母屋造りそばぶき平家建、約140㎡のどっしりしたもので、郷土歴史館わきに移築復元したもの。館内には、古い農機具・ミノカサ・結髪用具・古文書など民俗資料約500点が展示されている。入館料は、郷土歴史館と共通で、大人200円、子供50円。

県歴史資料館で地図展開催

県歴史資料館では、所蔵の江戸時代の絵図などの中から54点を選んで公開展示、県内に現存する最古の地図「美濃国絵図」や「萬国総界図」「江戸分間地図」「関ヶ原合戦大名配置図」など、どれも圧巻。とくに貴重なもので保管上の問題があるものは11月10日で展示を終えるが、その他のものは12月20日まで展示中。入場無料。

県博特別展 鉄斎 開催

岐阜県博物館では、春の日本伝統工芸秀作展、夏の郷土の化石展に続いて、本年3回目の特展を、近代日本画の画聖、富岡鉄斎の名品を網羅して開催。代表作「羅漢図」「富士山図」など展示点数は約100点、期間は10月28日～11月23日。特別展入場料は大人200円、高大生100円、小中生50円。(団体割引あり)

瑞浪市化石博物館 特展「昔のけもの」開催

10月25日～11月27日まで、陸のけもの、海のけもの、ゾウとウマの進化の歴史、ハチュウ類の四テーマのもとに、大型草食獣サイ・バク・ゾウの先祖、肉食獣の先祖、デスマスチル

ス・クジラ・アシカ・オットセイなど、昔のけもの化石特集として開催。通常の入館料だけで特別観覧料はいらない。

旧関電八百津発電所民俗資料館に

同発電所は、木曾川水系最初のものとして、明治44年ドイツ人技師が設計したもの。新丸山発電所の完成で取り壊されるところを、このドイツ風建物を文化遺産として残すとともに、先人の暮らしをしのぶ民俗資料館とし、一帯を八百津町の都市公園とするもの。現在町内から資料収集中で、八百津町教委では、より多くの方々の協力と援助を願っている。

編集後記

☆会員の方々から機関誌は死んでしまったのか、…の声がとどいています。編集委員各自の諸般の事情・多忙……との弁解はぬきにして、サッフル回転で頑張ります。☆博物館学あれこれ第1回としての「文化財の保存とその環境」はいかがでしたか。水野先生には4～5回お願い致します。博物館の「もの」にまつわる科学技術……ご参考になること多大、乞ご期待。

☆博物館の生命は「もの」でありそこにいる「ヒト」です。県下で活躍の博物界人をお訪ねしてあれこれ取材……のシリーズを始めました。この人を……というご希望をお寄せ下さい。

☆「世界の博物館」なる豪華シリーズものが出版されるようです。そこに登場する各国を代表する博物館はともあれ、私たち地方に生きる弱小館園こそは、土着思想に支えられた地味な博物館活動を開拓していかなければなりません。地域住民とともにある博物館の姿を求めて、……………

